② 資産除去債務の金額の算定方法
使用見込期間を取得から12年～41年と見積もり、割引率は、0.719%～2.13%を使用して資産除去債務の金額を計算している。

③ 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	101,503千円
法令の改正による増加額㈱	107,699千円
時の経過による調整額	1,486千円
資産除去債務の履行による減少額	△2,852千円
期末残高	207,836千円

㈱ 平成22年５月に交付された放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律の一部を改正する法律、並びに関係政令、省令及び告示について、平成24年４月１日から施行された。
これにより、重粒子線照射設備に関連する放射化物（放射線発生装置から発生した放射線により生じた放射線を放出する同位元素によって汚染された物をいう。）について、新たに放射線障害防止法の規制対象に加えられることとなったことにより、資産除去債務を見積もったことによる増加である。

（重要な後発事象）
該当事項なし。

附　属　明　細　書

当事業年度の附属明細書は、「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針（文部科学省　日本公認会計士協会　平成24年３月30日最終改訂）の様式に基づき作成している。

(1) 固定資産の取得及び処分、減価償却費（「第84　特定の償却資産の減価に係る会計処理」及び「第89　資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。）並びに減損損失の明細

（単位：千円）

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額			差引当期末残高	摘要
							当期償却額		当期損益内	当期損益外		
有形固定資産（特定償却資産）	建物	32,792,516	824,759	144,036	33,473,238	13,445,132	1,544,136	—	—	—	20,028,106	
	構築物	2,223,883	26,267	6,218	2,243,933	1,356,063	109,530	—	—	—	887,869	
	機械装置	4,521	13,339	—	17,861	4,660	487	—	—	—	13,201	
	工具器具備品	3,414,681	7,652	2,310	3,420,023	1,997,106	398,068	—	—	—	1,422,917	
	計	38,435,602	872,019	152,565	39,155,056	16,802,963	2,052,222	—	—	—	22,352,093	
有形固定資産（特定償却資産以外）	建物	23,828,035	700,824	3,103	24,525,756	9,329,520	1,037,830	—	—	—	15,196,235	
	構築物	1,039,145	61,715	—	1,100,860	505,510	55,747	—	—	—	595,350	
	機械装置	—	128	—	128	1	1	—	—	—	127	
	工具器具備品	28,809,083	2,431,981	258,008	30,983,056	20,718,134	3,616,925	—	—	—	10,264,921	
	医療用放射性同位元素	25,911	—	—	25,911	25,911	—	—	—	—	0	
	図書	3,222,309	24,798	80,113	3,166,993	—	—	—	—	—	3,166,993	
	車両運搬具	25,190	3,314	—	28,505	25,469	577	—	—	—	3,036	
	計	56,949,675	3,222,763	341,225	59,831,213	30,604,547	4,711,082	—	—	—	29,226,665	
非償却資産	土地	22,237,604	—	—	22,237,604	—	—	—	—	—	22,237,604	
	美術品・収蔵品	43,007	18,039	—	61,047	—	—	—	—	—	61,047	
	建設仮勘定	18,279	520,401	338,138	200,542	—	—	—	—	—	200,542	